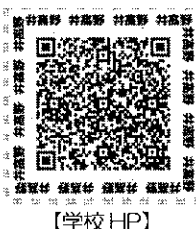


いた中だより



令和7年度1月号
令和8年1月8日発行
大阪市立井高野中学校



時は鐘なり!?

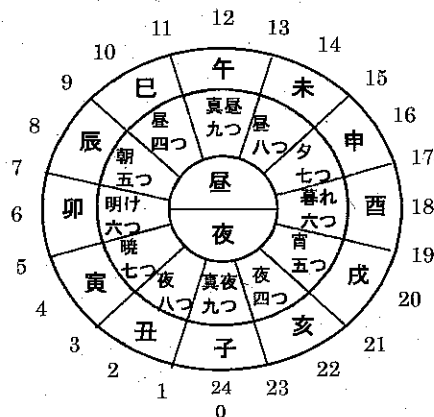
あけましておめでとうございます。お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も、昨年同様、本校教育にご理解とご支援をお願いいたします。

さて、今年の干支は、午（うま）です。午年は、古くから人々の生活を支えてきた馬を象徴することから、非常に縁起の良い年とされています。馬のイメージから、「物事が“うま”くいく」「幸運が駆け込んでくる」といった前向きな意味が込められているようです。

ところで、干支の12支の漢字を見てみると、例えば鼠は「子」、牛は「丑」というように、日常的に使っている漢字と違います。「うま」の場合は「馬」ではなく「午」という漢字になっています。

少し話は変わりますが、江戸時代には、この干支で時間を表していたのはご存じのことと思います。11時から13時までの2時間が午の刻です。そしてお昼の12時を「正午」といいます。この正午の前を「午前」、後を「午後」というのは、ここからきています。ちなみに夜中の12時（0時または24時）を「正子（しょうし）」と言います。

また、江戸時代、時計は大変高価なもので、庶民はお寺などが鳴らす「時の鐘」で時刻を知りました。こちらは、お寺の鐘の鳴る数で判断します。まず、気づかせるために「捨て鐘」を3回鳴らし、それからそれぞれの数を最初は長く、徐々に詰めて鳴らすようにしたそうです。時代劇で「暮れ六つ」というようなことをお聞きになったと思います。鐘が6回鳴るからです。先ほどの午の刻には9回鳴り、次の未の刻には「昼八つ」と言い8回鳴ります。ここから「おやつ」という言葉がきているとのこと。



お気づきになったと思いますが、鐘の鳴る回数が9回から4回まで一つずつ減っていき、そして、もとの9回に戻ります。この鳴る回数が9回から始まるのは、陰陽師が暦とともに時間も管理していたことに由来するらしいのです。陰陽道では奇数を縁起のよい陽の数とし、その極値が9であり、それ以降は、9を2つ重ねて18、さらに3つ重ねて27とするのですが、これでは数が大きすぎて、何回鳴ったか数えるのが大変です。そこで、十の桁を省略して8、7にしたようです。

時間が過ぎるのがますます早くなっていく現代。「光陰矢のごとし」と言うように、時間を大切に過ごしたいものです。「時は“金”なり」とも言われます。新たな年を迎え時間を有効に使うためにも、目標をもち、計画を立て、努力を積み重ねてほしいと思います。そして、「物事が“うま”くいく」そんな“うま”い年となりますように願っています。

1月行事予定表

(元は元気アップ学習会 SCはカンセツ開室日 マはマスマス学習会)

1	木	元日
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	
8	木	始業式
9	金	第5回実力テスト1日目 3年3限まで
10	土	新入生標準服採寸(9時~12時)
11	日	
12	月	成人の日
13	火	第5回実力テスト2日目 3年2限まで 元
14	水	5限まで 1・2年生チャレンジテスト
15	木	5限まで PTA3校合同社会見学 マ SC 元
16	金	5限まで 第3回英語検定 新入生保護者説明会
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	1年パラスポーツ体験 元
21	水	2年キャリア学習
22	木	1年パラスポーツ体験 私立出願指導(3年)
23	金	1年パラスポーツ体験
24	土	
25	日	
26	月	生徒専門委員会
27	火	5限まで 元
28	水	グッとモーニング キャンペーン
29	木	マ SC 元
30	金	
31	土	